

記 入 日 2017年 1月 5日

1. 概 要

| | | | |
|-----------|---------------------------|-----------------|--------|
| 実践団体名 | 大船渡市立日頃市中学校 | | |
| 連絡先 | 0192-28-2302 | | |
| プランタイトル | 私たちの町「日頃市」～ふるさとの復興の力になろう～ | | |
| プランの対象者※1 | 4 中学生 8 教職員 10 地域住民 | 対象とする 災害種別※2 | 7 災害全般 |

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

- ・中学生が自分たちのふるさとの災害の実情を知り、自分たちの力でふるさとの復興のために何かができるか考えるきっかけとする。
- ・非常災害時に中学生の立場でしなければならないことやできることを学び、災害に対する備えを行う。
- ・学校が主体となりながらも、地域や公的機関の支援や協力を受けながら全校体制で防災活動を行う。

【プランの概要】

- ・学校の教育課程を防災の視点で見直し、通常の活動に防災色を加味し活動を行う。
- ・夏休み中に避難所体験と、防災訓練を兼ねた「防災キャンプ」を実施する。
- ・「ふるさと再発見」地域写真集の作成。
- ・自分たちの活動の様子をブログ等で発信する。
- ・「タオルハンガー」を製作し、被災地へ送ることで多くの人に元気を与える。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

- ・実際の災害に備えた活動のシミュレーションを行うことで、中学生の意識の高まりが期待できる。
- ・被災地から被災地に向けて元気と支援の輪をつなぐことができる。
- ・人口減少・高齢化に悩む地域に元気を与えると共に、中学生に自分たちのふるさとに対する誇りを持たせることができる。

2. プランの年間活動記録 (2016 年)

| | プランの 立案と調整 | 準備活動 | 実践活動 |
|------|--|---|--|
| 4 月 | ・チャレンジプラン オリエンテーション | ・チャレンジプラン年間 活動計画の作成 | ・チャレンジプラン年間の見通し ・活動内容の計画 |
| 5 月 | ・地域写真集作成開 始 (~12 月) ・熊本地震へのタオ ルハンガー作成開始 | ・デジタルカメラの生徒 の配布 ・地域写真の撮影開始 | ・ニコンによる写真教室の開催 ・撮影計画の作成 ・熊本県益城町の中学校と熊本県内の 支援学校に 120 個送付 |
| 6 月 | ・通学路安全点検 ・防災キャンププレ ゼン提案 | ・五葉山登山に関する計 画を PTA と協働で立案 | ・自宅から学校までの通学路の清掃活 動を行いながら危険箇所の点検活動 を行う |
| 7 月 | ・五葉山清掃ボラン ティア登山 ・防災キャンプの計 画と調整 | ・防災キャンプ準備 (学 年で担当した内容につ いての計画、準備) | ・地域にある県立公園五葉山に親子で 登り、登山道の清掃活動を行う ・山小屋で使う薪を自分たちで背負っ て運ぶ ・防災キャンプ (1 泊 2 日) 実施 |
| 8 月 | | | |
| 9 月 | ・「岩泉にタオルハン ガーをおくろう」 | タオルハンガー材料の 準備 | ・全校生徒でのタオルハンガー製作 |
| 10 月 | ・「実はやがて身にな る」プロジェクト | | ・全校ボランティア (椿の実拾い) ・椿の実を集めて岩泉への支援金にする |
| 11 月 | ・地域写真集の編集 | | ・生徒が撮影した写真を大船渡市農協 日頃市支店に展示 ・個人写真集に編集 (ニコンフォトプロジェクト) |
| 12 月 | ・活動報告書の作成 | | ・台風 10 号被害の岩泉小学校と小本小 学校へタオルハンガー 250 個送付 (タオルハンガーはここまでで約 700 個作成) ・実践のまとめ、報告書作成 |
| 1 月 | ・来年度の活動計画 | | |
| 2 月 | ・学校行事日程調整 | | |
| 3 月 | | | |

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号：1】※3

| | |
|-----------------------------|---|
| タイトル | 防災チャレンジキャンプ |
| 実施月日（曜日） | 7月22日（金）～7月23日（土） |
| 実施場所 | 日頃市中学校 体育館、校庭他 |
| 担当者または講師 | 担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：鎌田 慎 所属・役職等：大船渡市立日頃市中学校 副校長 |
| 所要時間または「コマ数×単位時間」 | 24 時間 |
| プログラムのカテゴリ、形式※4 | 13 体験学習 |
| 活動目的※5 | 災害で学校が避難所になった時、24 時間をいかに生きるか体験する |
| 達成目標 | 自分たちで、疑似避難所体験をすることにより、災害に対する生徒の意識が高まる |
| 実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー） | ①防災マップ作成（グループでのフィールドワークとマップ作成） ②ツナ缶、アルミ缶ランプ作成 ③「サバメシ」体験 ④「段ボールシェルター」の制作 ⑤夜の校舎内点検（暗闇の危険体験） ⑥避難所体験（体育館での宿泊） ⑦防災糧食体験（クラッカー、水） ⑧災害時非常訓練（消防署の指導による） ・応急担架製作 ・スモーク体験 ・水消火器による消火訓練 ⑨高知市立南海中学校と防災ゲーム「HUG」の体験交流 |
| 準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等 | ・大船渡消防署員 ・懐中電灯、カッターナイフ、軍手、タオルケット（布団）、筆記用具、米、クラッカー、水（500ml）、薪、レトルトカレー、空き缶、ツナ缶、段ボール、クラフトテープ、HUG セット |
| 参加人数 | 日頃市中学校全校生徒 32 名、職員 13 名 |
| 経費の総額・内訳概要 | ¥40,127 送料、移動交通費、ランプ材料（ツナ缶、サラダ油）ラップ クラフトテープ、アルミホイル、カッターナイフ、乾電池 写真用紙、プリンターインク |
| 成果と課題 | 【成果】 ・体験を通して、実際の災害に備えて色々な準備をしておかなければならないことや、避難所での不便さやつらさを生徒が実感できた。防災に対する意識を高めることができた。 【課題】 ・単発的な活動で終わらないために、来年度以降も継続していく必要がある。その場合、マンネリ化しないための内容の工夫が必要 |



| | |
|------------|--|
| | である。 ・生徒が計画や準備、運営をしていくためには活動時間を確保しなければならない。 |
| 成果物 | ・防災チャレンジキャンプマニュアル |

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 2 】※3

| | |
|-----------------------------|--|
| タイトル | タオルハンガー |
| 実施月日（曜日） | 5月～12月 |
| 実施場所 | 日頃市中学校 |
| 担当者または講師 | 担当者・講師等の区分：担当者 氏名：村上 洋子 所属・役職等：日頃市中学校 校長 |
| 所要時間または「コマ数×単位時間」 | ①タオルハンガー製作についての説明と実習（1時間） ②製作活動（生徒のボランティア活動として適宜） |
| プログラムのカテゴリ、形式※4 | 2 講習会・学習会・ワークショップ |
| 活動目的※5 | 今まで受けてきた様々な支援の「恩」に感謝し、「恩」を次の方々に送るとともに元気を届ける |
| 達成目標 | ①地震被害の熊本県に20個 ②台風被害の岩手県岩泉町に250個 |
| 実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー） | <ul style="list-style-type: none"> ・製作の意義、目的の説明（オリエンテーション） ・製作の手順の説明 ・製作体験（学年毎） ・休み時間や放課後の時間を使っての製作 ・製作したタオルハンガーの袋詰め、タグ付け ・発送 |
| 準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等 | <ul style="list-style-type: none"> ・花や豆、植物の種・透明ホース・綿・丸棒・メッセージカード ・麻紐・日頃市中学校のタグ・菜箸・セロハンテープ |
| 参加人数 | 全校生徒32名、職員13名 |
| 経費の総額・内訳概要 | ¥8,821 タオルハンガー材料費（綿、丸棒、透明ホース、豆） |
| 成果と課題 | 【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒が活動に参加することができる ・花の種を贈り、その花が咲くことで活動が継続する ・感謝の気持ちを伝えることができる 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・製作するための時間の確保が難しい ・生徒の人数が少ないために、数をつくるために時間がかかってしまう |
| 成果物 | タオルハンガー（現在までで約700個作成） |

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

| | |
|---|--|
| <p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・防災キャンプは全くの初めての経験で、どのような活動を行えばよいのかの検討から始まり、どれぐらいの部分を生徒の活動として計画に参加させていけばよいかや、どのように提示したら生徒の意識が高まるかが手探りの状態であった。 ・参考となる資料はいくらかあったが、本校の実情に合わせた活動はどれがよいかを検討し、必要な資料を準備することが難しかった。 ・いつごろどのような活動を行っていくかの年間を通しての見通しを立てることが難しく、時間を産み出すことが大変だった。 ・防災キャンプに関しては、学年毎に担当を決め、担当の部分は自分たちが準備し説明を行うことで、計画から生徒が参加しているという意識を高めることができた。その他の活動については、教師側からの提案が主となったため生徒の自主的・主体的な活動にすることが難しかった。 |
| <p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・準備期間が短くなってしまったために、短期間での準備となり、必要な資材や物品を集めるのが大変であった。また、準備の時間も足りなくなったために十分な話し合いや企画の時間を保証しないままに活動がスタートしてしまっただけであった。そのため、生徒の自主的な活動の時間を十分にとることができなかった。 ・活動に必要な物品については、できるだけ校内にあるものや手に入りやすいものとし、新規に購入しなければならないものを極力少なくした。また、購入しなければならない場合にもできるだけ費用がかからないように工夫した（100円ショップの活用など） ・防災キャンプ（避難所体験）は初めての企画だったので、何をどれぐらい準備しておくかイメージしにくかった。 |
| <p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・すべてを学校が行うのではなく、消防署や防災科学技術研究所等の協力を得ながら、専門的な部分は専門家に教えていただいた。また、学年毎に担当するプログラムを決めたことで、担当の部分については、生徒が説明し活動を進めることができた。 ・既存の教育課程や行事、放課後の時間に活動を組み込むことで、防災学習の時間を確保することができた。 |

5. 他の団体、地域との連携

| 協力・連携先の分類 | 団体名、組織名 | 協力・連携の内容 |
|-----------------------------|--|---|
| 学校・教育関係・ 同窓会組織 | <ul style="list-style-type: none"> 日頃市保育園、日頃市小学校 | <ul style="list-style-type: none"> 地域合同避難訓練の計画作成 |
| 保護者・ PTAの組織 | <ul style="list-style-type: none"> 日頃市中学校 PTA | <ul style="list-style-type: none"> 五葉山親子ボランティア登山への同行 |
| 地域組織 | <ul style="list-style-type: none"> 五葉山自然倶楽部 県立公園五葉山管理事務所 日頃市地区公民館 | <ul style="list-style-type: none"> 五葉山親子ボランティア登山案内 地域合同避難訓練の計画作成 |
| 国・地方公共団体・ 公共施設 | <ul style="list-style-type: none"> 大船渡消防署 大船渡市役所 防災科学技術研究所 | <ul style="list-style-type: none"> 消火体験、煙体験 応急担架作成講習 「椿」学習の支援、椿 の実の買い取り 防災マップ作成指導、 マップ準備 |
| 企業・ 産業関連の組合等 | <ul style="list-style-type: none"> 株式会社ニコン | <ul style="list-style-type: none"> 地域写真集作成のための 写真講座の開催 地域写真集の印刷及び 製本 |
| ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等 | <ul style="list-style-type: none"> 公益社団法人日本フィランソロピー協会 | <ul style="list-style-type: none"> チャリティリレーマラ ソン2,016による活動支 援金の援助 |
| 職業、職能団体・ 学術組織、学会等 | | |

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

| | |
|--------------------------------|--|
| <p>成果として 得たこと</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の防災意識を高めることができた。 ・地域理解や地域との関わりを深めることができた。 ・他校や他地域との繋がりを持つことができた。 ・生徒に「自分たちにもできることがある」という地震を持たせることができた。 ・実際に避難所体験のある本校職員から、避難生活のアドバイスを聞くことができた。 |
| <p>全体の反省・ 感想・課題</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・台風や土砂災害など、今後予想される災害への備えを具体的にどのようにしていくか、実際の災害を想定して考えていかなければならない。 ・地域が高齢化、少子化する中でどのように地域の力を維持していくかが大切である。中学生といえども地域を担っていく大きな役割を負っていることをしっかりと自覚させていきたい。 ・活動を維持していくために必要な時間と資金をどのように産み出していくかが、今後の課題である。 |
| <p>今後の 継続予定</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の経験を生かした「第2回防災キャンプ」の実施。 ・地域公民館、保育園、小学校との合同で行う「地域避難訓練」。 ・「恩送りプロジェクト」として「タオルハンガー」の製作の継続。 ・「椿」の学習を生かして、椿の実を活用した町おこしと、自分たちが集めた椿の実を買い取ってもらうことで得た募金を贈呈する「実はやがて身となるプロジェクト」。 ・ブログや新聞記事による「自分たちの活動の発信」。 ・被災地のあのと今を伝える活動「大船渡市の今」。 |

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

<防災チャレンジキャンプの様子>

防災マップの作成



空き缶ランタン



段ボールシェルター



煙体験



応急担架



炊き出し訓練



(自由記述: 1/3)

<タオルハンガーの作り方> 東日本大震災の支援で教えていただきました。

 花とみどりでできることシリーズ 

豆やタネを使って・・・

タオルハンガーを作ろう



【よいところ】

- ① 材料の手触り、香など、作りながら楽しめる要素がある
- ② 育てた花のタネ、ドライフラワーなどを活用できる
- ③ 集中する時間を持つことができる
- ④ 成果がすぐわかり、自己表現の場となる
- ⑤ 生活の中で利用できる

【準備するもの】

・チューブ(透明) ・花のタネや豆、
・留め具 乾燥させた花びら etc
・棒(菜箸) ・リボン(ひも)
・モス *綿や毛糸で代用可

【作ってみましょう】

- ① チューブを 40 cm(45 cmでも O.K.)の長さに切る
*長さは目安ですので、お好みで調節できます。
- ② 留め具を準備する→チューブの太さ・形状に合った木の棒を用意し、
2.5 cmの長さに切り、断面をやすりでとぐ
- ③ チューブの中にモスを入れる
*棒(菜箸で代用可)でチューブの中心まで押し込みます。
- ④ モス→タネ→モス→タネ→モス・・・の順にチューブの中身を詰める
*モスがタネがこぼれるのを止める役割をしてくれます。
チューブの両端はモスで終わるとよいでしょう。
- ⑤ 中身が全部詰まったらホースを丸く整え、留め具で栓をする
- ⑥ リボンをつければできあがり

【ポイント】

- ・ タネや花びらは十分に乾燥させてから使いましょう！
乾燥が不十分だと、湿気てしまい、カビが出る原因になります。
- ・ 豆やタネの名前当てクイズや図鑑調べなど、作業以外の活動も楽しんでみましょう。

「おすすめの素材」

(豆) ムング豆、緑豆、コーン、コーヒー豆、小豆、とら豆、ひよこ豆 etc
(タネ) ひまわりのタネ、フウセンカズラのタネ etc
(ドライフラワー/木の葉) 赤とうがらし、千日紅、ヒノキの実、etc

作業工程



兵庫県立淡路景観園芸学校/兵庫県園芸療法士会

(自由記述: 2/3)



「タオルハンガー」(恩送り)プロジェクト 大船渡市立日頃市中学校



花の種と笑顔をお届け
ます。
「はるかのひまわり」の
花を咲かせて下さい。

阪神淡路大震災の時の
「はるかのひまわりプロ
ジェクト」からうけつだい
まわりの種と、陸前高田
市の浸水区域から採取し
た「フウセンカズラ」の種
のほか、色とりどりの様々
な植物の種を入れました。



生徒が一つ一つ手作りで作成
しています。これまでに、大船
渡地域のお世話になった方々
や熊本地震で被災した学校に
送りました。

日頃市中学校のタオルハンガ日頃市中学校のタオルハンガーの活動
はこの活動は、東東日本大日本大震災津震災津波の時波の時にいた
だいた「恩」を返すのではなく、他の人に「送る」「恩送り」の活動として
取り組んでいます。元気の輪が広がることを願っています。

(自由記述: 3/3)